

家具、園具の修理法

東京女子高等師範學校

山形 寛

一 修理は直ちに

時局柄物資節約、資源愛護が叫ばれて居りますが、既に使つて居る家具や幼稚園の園具をなるべく大切に破損しないやうにすると共に、破損したものは之を修理して使ひ度いと思ひます。諸行は無常でありまして物は使へば必ず何時かは破損するものですが、物は使ひ方により、又手まめに修理することによつて、寿命は二倍にも三倍にも伸ばすことが出来るのです。

病氣もその初期に氣がついて治療すれば比較的簡單になるのと同様に、家具も破損の初期に氣が付き直ちに修理をすれば素人にでも簡單になほせるものを、打ちやつて置いたためにだんく破損の箇所が大きくなつて、遂には家具屋の手にかけてもだめになつてしまふことが少くないのです。それで編纂者の御命により、此所に家具園具類の素人に出來る初期修理に就て二三お話しやうと思ひます。

二 卓上に出來た茶碗のあとをとるには

机やテーブルの上に濕つた器や熱い器を置きますと、その跡に白い圓い輪形が出來て大變見苦しくなります。之は濕つたものや熱いものを直接に載せないで初めからそんな輪を作らないに越したことはないのですが、如何に注意して居つても何時の間にか出來てしまふことがあります。漆で塗つたものならば、かう言ふ輪はめつたに出來なく、又上等の家具で透明ラッカーを丁寧に擦り込んだものならば一寸位熱いものを置いても輪は出來ないのですが、普通品はワニス塗り仕上げになつて居り、このワニスは水分や熱に對して甚だ弱いもので、濡れた茶碗をしばらく載せて置いたり、熱いものを一寸置いただけで、もう跡がつくのです。

ワニスは普通ニスとも言つて居りますが、之にも非常に澤山な種類があるのですが、油で溶かしたものと、アルコホルで溶かしたものとがあり普通品には後者が多く用ひられてゐます。

そこでその輪形の修理ですが、脱脂綿を布片で包んだものか、布かにアルコホルをつけたもので、軽くその周圍をこすれば簡單にされてしまひます。この時あまり局部的にこするとし、その部分だけのワニスをはげてしまつて見苦しくなりますから、周圍や、廣い部分を擦るがよろしい。そ

してこすつた部分ミ然らざる部分ミの間は手際よくぼかすやうにしなければなりません。此の修理法は、周囲のワニスをアルコールで溶して来て跡のついた部分に塗るこゝになるのですから、度々やるミ全體のワニスがされてしまつて光澤を失つて來ます。その時は白ワニス、四割ラック等の如きものを買つて来て（塗料屋又は藥屋等にありませう）机の面全體を軽く紙鏝でこすつてから、一寸幅位のニス刷毛（十錢か二十錢位のもの）で薄く全面に二度位塗ればよろしいのです。此の時若しニスが濃過ぎたならばアルコールで薄めて使ひます。ニスはあまり厚くつけ過ぎるもかへつてむしろなつたり、下品な光澤のものになります。

三 釘のゆるんだ時は

家具類でも床板のやうなものでも、時々釘がゆるんで來て、板がはがれさうになるこゝがあります。釘のゆるんだのをそのまゝにして置くミ、着物を引かけたりのみすし、又だんだんそれがひびくミ、全體が破損してしまひます。

釘がゆるんで來た時は、そのまゝ釘の頭を金鋸で打ち込んだだけでも、しばらくは持ちますが、ぢきに又ゆるんで來ます。その時は元の釘を抜いてしまつて（ゆるんだ釘は釘又はカジヤで容易に抜けます）元の釘より稍々長い釘をその孔に打ち込めばよろしい。若し長い釘を打ち込むミ

板の裏の方へ釘が出る恐れのある場合には、元の釘の横に別の釘を打ち込むがよろしい。

釘を打ち込むに弱くコツ／＼／＼ミ何度も何度も打つミ釘がきかなくなりませう。よく釘の方向を見定め、その方向に金鋸を強く打つてなるべく少い回数で打ち込むがよろしいのです。

四 机其の他家具類がぎしぎしして來たら

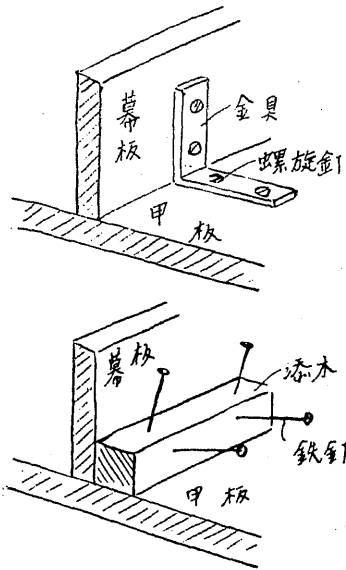
十分乾燥した材料で、正式な工作法によつて造られた家具ならば、三年や五年使つたからきてぎし／＼して來る筈はないのであるけれども、生木を使つたり、製材する時濕らせた材料を乾燥させないでそのまゝ使つたりするミ二三年して材料が乾燥して來るにつれ、仕口にゆるみを生じて來て結合部がゆるんでぎし／＼して來るのです。それも仕口の内部の見えない部分をごまかさないうで親切に作つてあれば、まだしも狂ひは少いのですが、既成の賣品なきにはあまり信用のおけないものが多いのです。

學校さか幼稚園さかの如く、澤山の卓子腰掛なごを使ふ所では、購入して四五年もした時に、一度職人を入れて全部見てもらつて、ゆるみの來たものは締めなほさせるミ、保存期間がすつミ延びませう。それを捨てて置いて使用に堪えなくなつてからでは修繕のきかなくなつたものや、たミへ修繕は出來ても大變澤山の修繕費を要するやうになつて

甚だ不經濟です。

小數の家具だに、一々職人に修繕させるのも手数ですが、自分で修繕するこよいと思ひます。大破してしまつたものの修繕は新しく作るのよりもかへつて面倒なこもありませんが、少し結合がゆるんで来た程度ならば、一本の釘を打つただけでもつやうになりますし、又一寸した補強材料をつけただけでもつやうになります。

扱てぎし／＼弛んで来た時の修理法ですが、同じ機のやうなものでも、甲板(上面の板)と脚との結合法にもいろいろあり、又ぎし／＼言ふやうになる原因も多種多様ですから、現物を見なければ確かなこは言へないのですけれど、大體の處を申しますと、上圖に示したやうなL字形を



した金具を求めて來まして、甲板と脚、脚と幕板(甲板の下脚と脚との間に横にはいつて補強と體裁をよくする爲めの板)、甲板と幕板等、弛んでぎし／＼動く部分の、内側の目立たぬ所に當てて、螺旋釘で止めるが最もよいのです。金具は金物屋で賣つてゐます。圖は机をひつくり返して裏側の一部を示したものです。

螺旋釘を擦ぢ込むには、錐で釘より稍、細い孔をあけて置いてから螺旋廻しで擦ぢ込むのです。之も初めから堅くは止まらぬかも知れませんが一二度經驗すれば容易に出來ます。

若し金具の無い場合には、下圖に示す如く二センチ角位の木の角棒を適當の長さに切つたものに、膠をつけて、動くやうになつた部分の内側につけ、上から更に釘を打つて甲板と幕板等こにしっかりと固定します。圖に釘を打つ方向を示して置きました。膠をこかすこは面倒ですから、飛行セメン、櫻セメン等と稱するチューブ入りの接合剤(一本十錢位)を用ひれば輕便です。之は子供の手工用品なごを賣つてゐる所で求められます。削つた角材も家具や建具なごを製造した店に行けばあります。

五 蟲の喰つた時には

櫛やラワンなごで作つた家具には、蟲がついて黄色い細粉を小さい孔から出すこがあります。之は外から見ても

小さな孔をあけるに過ぎませんが、捨て、置きます。内部は粉ばかりになつて、上面はニスのみ込んである部分だけ紙のやうな薄さに残るに過ぎなくなります。此の蟲はいろ／＼やつて見ましてもなかく、死滅しませんが、二硫化炭素をスポイドのやうなもので、蟲のあけた小孔から流し込んでやればたいは死にます。然し全滅はなかく、容易でなく、又時を経れば粉を出すころがありますから、その時は又二硫化炭素を注入することです。二三度やつてる中には大抵大丈夫です。この蟲は成品になつてから外から這入るのでは無ささうです。素材の中からはいつてるのが、何かの都合で急に活動し出すやうです。又板が接ぎ合せてある場合には一枚の木だけを喰つて、他の板にはめつたに移りませんから、その喰つた一枚をとり替へれば一層よいのですが、それは素人には出来ません。今回は先づ此の位にして置きます。

【新刊】

高島 巖著

歌ふ子供たち

著者は十五年餘もの長い年月を、社會事業の爲に生活された方である。現在は「子供の家學園」の園長として、被虐待兒童の保護に専念せられてゐる。本書は著者のかゝる生活の中から生れ出た感想、座談、講演、記述の中から、被虐待兒童に關するものだけを集められたもので、讀む者をして、著者のこの努力に對して心から崇敬の念を感ぜしめないではおかないのである。御一讀をおすゝめする。(記者)

(東京市芝區田村町一ノ三、萬里閣、定價壹圓三拾錢)

坂内ミツ著

幼稚園の生活

本書は徹頭徹尾實際の書である。著者が二十餘年の間幼兒と共に生活をした方であるだけに、その一頁を開いて見ても、幼兒保育の實際に携はつて居る者には心打たる、事ばかり、大方の御精讀を切にお奨めする次第である。(記者)

(東京神田區一ツ橋二ノ五、賢文館發行、定價壹圓五拾錢)